

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第五中学校	校長	岡野 哲朗	生徒指導主事	比舎 宏哉
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『運動会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	2	「思考力・判断力・表現力」	3

取組のねらい『キーワード リーダー育成』

1年生から3年生を縦割りに分けて行う唯一の学校行事。各学年のリーダーを決めて、3年生を中心に練習を進めた。リーダー選出はやる気のある生徒自らの立候補により決めている。リーダー会を開き、ミーティングを行い確認しながら練習を進めた。その練習では、全体の指示は教員が出すが、その後は色別に分かれてリーダーを中心に自分たちで考えて練習を進めた。



取組の具体的内容『キーワード 縦割り集団』

縦割り集団では、リーダーを中心に練習を行った。本校では、運動会時期になると、朝練習を生徒が企画し、各学年のリーダーを中心に大縄跳びや行進、校歌の練習などを行っている。教員は3年生のリーダーに指示を出し、下級生へは3年生が指導するという形ができており、下級生への伝統の継承が運動会の練習において進みつつある。

課題は、縦割りの取組が「運動会だけになっている」ことである。この縦割りの取組を運動会だけでなく、他の行事等につなげていきたい。



取組の課題・創意工夫『キーワード 人間関係づくり』

運動会に向けての決意をメッセージカードに書いて意欲向上を図ったり、「みんなからみんなへ」メッセージを送ったりと、縦だけではなく横のつながりも大事にして取り組んだ。縦割り集団は縦だけでなく、横もクラスを越えての活動になるので、学校全体で考えていく必要がある。

メッセージカードは、「安心の雰囲気」をつくるすべての人間関係づくりの取組である。生徒の心の居場所づくりを日々工夫していく必要がある。



取組の成果（効果）『キーワード 生徒の繋がり』

メッセージカードの取組を通して、生徒と生徒を繋ぐことができた。お互いの良い言動を取り上げ、生徒の自己肯定感や自己存在感を高められた。メッセージをもらった生徒は、照れと喜びが混じったようないい顔をしていた。

また、生徒自らが運営することで、ルールを守ろうとする生徒が増え、生徒間で注意し合う姿が見られた。終了後には多くの生徒が「やりきった」という達成感を味わうこともできた。

今後の展開『キーワード いろいろな活動につなげていく』

運動会では、リーダーを中心に活発に取り組むことができる。運動会のようにリーダーを育成し、主体的な学校行事、特別活動ができるように学校全体で活動の場を広げていきたい。

今回の取組で異年齢集団の繋がりができたので、学級内の人間関係を今よりさらに良好な関係にできるように、学級の雰囲気づくりにも取り組んでいきたい。

他教科との関わり『キーワード 道徳』

本校では、運動会と関連付けた道徳の授業を実施している。運動会実施後に、内容項目【B（6）感謝】を扱う道徳授業を設定し、その終末において、運動会でお世話になった人に感謝を伝えるメッセージを書いた。1・2学年は先輩への感謝、3学年は同級生リーダーの良い所を挙げ、感謝の思いを表現した。

